



令和5年度 日向市立坪谷小学校 学校関係者評価書 No.1

学校経営ビジョン

「地域を愛し、地域が誇る児童の育成」を目指して

～3つの「あ」を大切に【あいさつ・ありがとう・あたりまえ】～

重点目標	達成目標	4段階評価の平均 十分達成＝4 概ね達成＝3 あまり達成できていない＝2 ほとんど達成できていない＝1				評価指標(アンケートの到達目標)	評価指標達成状況及び次年度の改善策等	達成度評価 (自己評価)		学校運営協議委員会による評価 期待以上A 期待どおりB 期待を下回るC 要改善D	
		児童 自己評価	保護者 自己評価	職員 自己評価	全体平均			平均3.4以上 A 平均3.0未満 C		評価	コメント
個に応じた指導の充実、 学に意欲と学力の向上	基礎基本の確実な定着と学ぶ意欲の向上	3.8	3.0	3.0	3.3	○アンケート全体平均3.2以上 ○単元末テストで学年平均8.0点以上	アンケート全体平均3.2を上回った。授業の中で振り返りと習熟の時間をとり、学習内容の定着度の見届けと把握を行うことで、基礎基本の確実な定着を図る。また、児童の興味・関心を引くような導入や、問いをもたせるような授業の工夫を行うことで、学ぶ意欲の向上を図る。	B		B	B ○授業での学力向上については、先生方が工夫をして頂いており、基本的な学びができていていると感じる。家庭での復習をどうすれば能動的にできるかが難しい。 ○読書については、今の時代難しいことだとは思いますが、取組は続けていくべきだと考える。坪谷小は学ぶ環境としては最適だと思うので、先生方の努力に感謝する。 ○複式での授業であっても、個に応じた指導ができていていると思う。 ○小規模校の利点のひとつに、児童一人一人に対しての理解と細やかな指導ができることがあると思う。弱みとしては同級生が少ないことから幅広い考え方が、意見に接する機会が少ないと思われる。この環境の中で最良の方策をとるべく、先生方、保護者も努力をしていることが窺われる。読書については、現在のようには様々な情報入手の手段がある中では、時間をかけて読むことは少なくなってくるのかなと思う。場面を想像しながら読むワクワク感は大事だと思うが・・・ ○本人評価に比べて、保護者の評価、職員の評価と下がっている。平均すれば良さそうに見えるが、気になる点。改善したい点が多々あると見受けられる。次年度に近づけてほしい。今年度も読書の評価が良くない。手を打ってあるのだろうか、まだ結びついていない。地道に対策を続けるしかない。 ○個に応じた指導の充実が高いのは、とても良いと評価できる。ただ、「読解力」に力を入れてほしいと思うが、子の興味が高いものから取り組むのも一つの方法ではないかと考える。
	児童にとって分かりやすい授業の工夫・改善	3.8	3.0	3.0	3.3	○アンケート全体平均3.2以上 ○研究授業1人年2回以上	アンケート全体平均3.2を上回った。放課後の勤務時間を教材研究に充て、ひなたの学びを意識した授業づくりや、主題研究を中心とした研究授業を実施することで、分かりやすい授業の工夫・改善を行う。	B			
	家庭学習の充実	3.4	3.0	3.0	3.1	○アンケート全体平均3.2以上	アンケート全体平均3.2を少し下回った。タブレット教材の活用や、学力テスト対応の問題等も意識し、児童の実態や発達段階に応じた課題を精選して取り組ませることで、家庭学習の充実を図る。	B			
	個に応じた指導の充実	4.0	3.2	3.0	3.4	○アンケート全体平均3.2以上	アンケート全体平均3.2を上回った。児童が苦手としていたり、補充が必要だったりする内容を把握するため、普段の授業から、練習問題などで学習内容の定着度を見取ることができるようにすることで、個に応じた指導の充実を図る。	B			
	読書環境整備、読書指導の充実	2.8	2.1	2.3	2.4	○アンケート全体平均3.2以上 ○学期目標冊数 1・2年…5.0冊 3・4年…4.0冊 5・6年…3.0冊	読書意欲の向上のため、様々な取組を行っているが、前年度に比べなかなか貸出冊数が伸びなかった。次年度も引き続き、親子読書や読書月間、地域の方々による読み聞かせなどを実施し、更なる読書指導への徹底を図る。また、学校図書館司書とも連携を密に取りながら、読書活動、図書室整備を行う。そして、児童の読書への興味・関心を高めるために委員会活動を活用し、児童自らが中心となって読書活動に参加していただけるようにする。	C			
体験活動を通して豊かな心の育成	体験活動の充実	3.8	3.5	3.3	3.5	○アンケート全体平均3.2以上 ○稲作体験等の完全実施	地域の方の協力により、様々な体験活動を行うことができ、児童も意欲的に取り組むことができた。その結果、全体的により評価を得ることができている。次年度も計画的に活動を行い、通信等を活用して広報にも力を入れていく。	A		B	B ○行事が多く体験する機会に恵まれている。地域にも支えられて、郷土愛が育まれている。整理整頓については、家庭での教育にも力を入れる必要があると感じる。 ○人格の形成の上では坪谷小は最高の環境だと思う。坪谷小卒業の子どもたちを見てほしい子達が多い。先生や地域の方に感謝している。 ○体験活動に一生懸命取り組むことができていて、地域での活動・あいさつ等よくできている。 ○坪谷小学校の体験学習の最たるものは「若山牧水先生の母校」に由来する様々の発表活動であると思う。その活動の中で大勢の人たちに挨拶をしたり、声をかけられたりと他校にはない体験ができていて、地域においては、サロンとの交流活動などで地域の人達と触れ合うことはできるが、関わり方が限定的なので坪谷という「ふるさと」を身近に感じることが少ないと思われる。ともあれ、坪谷小の子どもたちは、様々な体験活動の中から、学年に応じて自分たちの役割を学び、上級生になったときは、下学年を思いやり、リーダーシップを発揮できるようにになっていると思う。時間の使い方、感謝の気持ち、挨拶等は、基本は家庭であると思うので、その大切さに気付くことができるようにアプローチしていくしかないと思う。整理整頓についても同じだと思う。 ○少人数ということもあり、一人一人の役割が大きいので、個々の体験は豊かであると思われる。今後も続けてほしい。 ○体験活動やあいさつの面など、高い評価を得ていることは、大変良いと感じる。しかし、身の回りの整頓や時間を大切にしている面が低いことは、人間形成に必要なことだと思うので、いろんな視点や工夫を講じる必要もあるかもしれない。
	キャリア教育	3.4		2.8	3.1	○アンケート全体平均3.3以上	アンケート全体平均3.2を少し下回った。職員にキャリアパスポートを活用する具体的な方法を提示し、共通実践する。また、通信等で本校で行っているキャリア教育についてに知らせる機会を設定し、各家庭がキャリアパスポートを確認する機会も併せて設定する。	B			
	縦割り班における人間関係の醸成、リーダー性の向上	3.8	3.1	3.3	3.4	○アンケート全体平均3.2以上 ○いじめ認知3以下、年度内解決	アンケート全体平均3.2を上回った。行事や清掃の時間などに、おすず班を中心とした縦割り班での活動を充実させることで、異学年間の交流と、協力して目標を達成させる経験を促し、人間関係の醸成を図る。また、下学年が「やってもらう」意識ではなく、主体的に行動するリーダー性の向上を図るため、学級内でも上の学年が手本となる姿を見せられるようにしたり、他学年とのペア活動を取り入れるなどしたりしていく。	B			
	牧水顕彰活動を通した、自尊感情、郷土愛の育成	3.6	3.5	3.5	3.5	○アンケート全体平均3.2以上 ○顕彰活動完全実施	牧水生家清掃や牧水ヶ丘祭りなど予定されていた顕彰活動を全て実施することができた。牧水生家清掃では、班で協力して清掃活動に取り組み、若山牧水先生が見ていた坪谷の景色にも注目しながら活動することができた。登校時の短歌朗詠や、短歌作り等においても若山牧水先生に触れることができた。次年度も継続して顕彰活動を実施し、自分たちの地域や学校に誇りをもてるようにする。	A			
	元気のよいあいさつのできる児童の育成	3.3	3.3	3.1	3.3	○アンケート全体平均3.2以上	アンケート全体平均3.2を上回った。毎日のあいさつや、授業前後の号令など、あいさつの声の大きさや明るさを意識して常時指導していき。また、よくできている児童を称賛し、価値づけを行うことで、元気のよいあいさつのできる児童の育成を図る。	B			
	指名をされたら「はいっ」と返事ができる児童の育成	3.6	3.2	3.0	3.3	アンケート全体平均3.2以上	アンケート全体平均3.2を上回った。よい返事とはどのような返事か、全校で共通理解し、全学年共通した学級掲示を作成することで、よい返事ができる児童の育成を図る。	B			
	感謝の気持ちをもち「ありがとう」が言える児童の育成	3.8	3.5	3.1	3.5	○アンケート全体平均3.2以上	アンケート全体平均3.2を上回った。教職員が児童に対して積極的に「ありがとう」という言葉を使うなど、教職員が児童の模範となるような姿を見せていく。また、行事等の際、保護者の方や地域の方の協力があって活動できることを意識させることで、感謝の気持ちをもてる児童の育成を図る。	A			
	身の回りの整理整頓ができる児童の育成	3.1	2.3	3.0	2.8	○アンケート全体平均3.2以上 ○週1回の整頓の日完全実施	アンケート全体平均3.2を下回った。学級の児童の実態に応じて、整理された机やロッカーの中の写真を掲示するなど、視覚支援も取り入れながら、身の回りの整理整頓ができるようにする。また、学習に必要なもの以外は持っていない、使わなくなったものはすぐ持ち帰るなど、常時指導も徹底していく。	C			
	時間を大切にすることができる児童の育成	3.1	2.7	2.8	2.9	○アンケート全体平均3.2以上	アンケート全体平均3.2を下回った。1分前着席やチャイム黙想などのきまりを職員と児童が共通理解して指導していく。授業開始と終了を確実に守るようにする。	C			



令和5年度 日向市立坪谷小学校 学校関係者評価書 No.2

重点目標	達成目標	4段階評価の平均 十分達成＝4 概ね達成＝3 あまり達成できていない＝2 ほとんど達成できていない＝1				評価指標(アンケートの到達目標)	評価指標達成状況及び次年度の改善策等	達成度評価 (自己評価)		学校運営協議会委員による評価 期待以上 A 期待どおり B 期待を下回る C 要改善 D	
		児童 自己評価	保護者 自己評価	職員 自己評価	全体平均			平均3.4以上 A 平均3.0未満 C	評価	コメント	
健康・食育 増進を基盤 と体力の向上	「早寝・早起き・朝ご飯」を実践できる児童の育成	3.2	2.9	2.6	2.9	○アンケート全体平均3.2以上	長期休業明けの1週間、生活チェックを行っている。実施期間中は、意識して生活リズムを整えようとする児童が多くみられた。しかし、睡眠不足や朝食の欠食が一因として考えられる体調不良者が来室することもあり、生活習慣に課題がある児童もいる。引き続き、長期休業前や全校集会、掲示物等での保健指導を行った。保健だよりを活用したりして、保護者に向けた情報発信をしていく。また、メディアコントロールについても定期的に情報発信を行い、規則正しい生活習慣を実践できる児童を育成する。	C	B	B	○メディアコントロールは大きな課題と思う。家庭での指導やルール作りが必要だが、現実的には難しく各家庭の環境にもよる。 ○早寝早起きについては、子どもにとって、スマホやゲームなどの誘惑が多く、難しい問題だと思うが、取組を続けることが大事だと思う。 ○早寝早起き等の生活習慣を身に付けるには、日々の生活が大切だと思う。継続的に指導をして、家庭での教育を向上させる必要があると思う。 ○身体的には元気である。健康面・体力面に問題は感じられない。活躍する場面が多だけに心の負担が気になるところではある。 ○昔とすると家庭での食事やその環境も変化しているのだろうか。家庭と一緒に料理を作る機会やお手伝いをとおして、料理することに興味を持ち、それらが「食育」につながっていくのが良いのではないかと。段階を踏みながら進められたら良いのかもれない。 ○食育の基本は家庭であると思う。補足的な栄養教育、身体の成長に伴う教育などを学校で行うことで、子どもたちに食の大切さを分かってもらえることもあると思う。
	体力向上プランをもとにした日常運動や体育の時間の工夫・充実	3.8	3.1	2.8	3.3	○アンケート全体平均3.2以上 ○体力向上プランの実践事項完全実施	体育指導における児童及び保護者の達成度が高いことから満足度の高さが伺える。しかし、職員の評価については低い。そこで、教職員、児童、保護者がわかる形で体力の向上の伸びを確認できる掲示物の作成や指導の仕方及び目標とする児童の姿の共有を行い全体評価をより高められるようにする。	B			
	栄養教諭などの活用を通した食育指導の充実	3.5	3.3	3.6	3.5	○アンケート全体平均3.3以上 ○栄養教諭訪問の完全実施	9月、11月、12月に栄養教諭が来校し、各学級に食育の授業を実施した。授業の内容や児童の様子を食育だよりや校内掲示物を活用して保護者に発信した。しかし、給食中の栄養教諭の指導を計画することができなかった。次年度は、食育の授業と関連を持たせ、給食時も栄養教諭に入っていたいただき、食育指導の充実を図る。	A			
	家庭料理の日の内容の充実	3.7	3.0	3.3	3.3	○アンケート全体平均3.3以上 ○家庭料理の日の完全実施と、通信等での連絡評価	夏休みと冬休みの年2回「家庭料理の日」を実施した。ワークシートには、調理をした際の気づきや感想、保護者への感謝の気持ちが入り記されており、充実した取組の様子が見受けられた。今年度も、ワークシートを効果的に活用することができなかった。次年度は、ワークシートを掲示して児童や職員、保護者等が見る機会を設けたり、各クラスで発表の時間を設けてもらうなどして、食育の実を固める。	B			
地域等と連携した推進	学校と地域との連携の充実		3.4	3.2	3.3	○保護者・職員へのアンケート全体平均3.7以上 ○運動会などの行事における地域の方々への参加呼びかけ	新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類となり、保護者・地域の方との語り合いの機会が増え、様々な行事での連携した取組が増えてきた。そのため、保護者からの評価がよかった。今後は、地域を愛する児童の育成を図るために、地域人材から学ぶキャリア教育の視点を意識した体験活動にすることで、学校が地域づくりに貢献していく。	B	A	A	○地元の児童減少により、地域と保護者とのつながりが希薄になっていくのが危惧される。 ○素晴らしい取組だと思う。坪谷の子どものために、頑張る継続して欲しい取組である。 ○特設校制度により、多くの児童が地域外から登校していることもあり、つながりが薄れないよう交流の場を更に充実させていただけたいと思う。 ○今年も学校に足を運ぶ人の顔ぶれが多くなったとは言えない。放課後の見守りを増やす方向にもってきたい。 ○地域との連携は、坪小では不可欠と思うので、現状が継続していけると良い。 ○地域にとって、学校の存在はとても大きいと思うのだが、自分の子、孫がいなくても関係ないという風潮もあるため、双方からの情報発信等で意識づけをしていく必要がある。
	学校の様子の積極的な情報発信		3.7	3.7	3.7	○保護者・職員へのアンケート全体平均3.7以上 ○週1回以上のホームページの更新月1回の学校だより	毎月発行する学校だより「ほととぎす」、学級担任が定期的に発行する「学級通信」、定期的に更新を行った「ホームページ」、学校行事等をお知らせした「坪谷小安心メール」「地域への回覧」を積極的にを行い、学校・学級の様子を地域や家庭に発信できた。次年度は、地域の方が、更に興味・関心をもってもらえるような、分かりやすい広報活動を行っていく。	A			
小中一貫教育の実現	東郷地区の小中一貫教育の目標(グランドデザイン)の理解		3.3	3.2	3.3	○保護者・職員へのアンケート全体平均3.0以上	グランドデザインについては、PTA総会、地域ネットワーク協議会で周知を図り、改訂があったときには、保護者へ知らせた。更に連携を深める上でも、通信等を通じて、東郷学園と連携したグランドデザインに基づいた取組を、家庭・地域に発信することで、東郷地区全体で「郷育」を図ることができるようにする。	B	B	B	○他校との交流等を積極的に行うことが大事だと思う。 ○東郷学園との交流をこれからも積極的に行ってほしい。 ○小学部が別々の場所での小中一貫であり、それぞれに地域性も違っているため、指導も難しいところもあると思うが、それなりに成果は出ているように思う。 ○久しぶりに東郷学園の行事に聞かれた。坪谷小学校の子どもたちは、特に多くの同じ年代の子とたちと交流するのは必要不可欠なので、大いに機会を捉えて連携してほしい。 ○グランドデザインは、東郷学園との連携で構築されていると思うが、「坪小らしさ」「坪小ならではの」も大いに盛り込んでもらえるといい。
	小中一貫した共通実践の充実		3.2	2.9	3.0	○保護者・職員へのアンケート全体平均3.0以上 ○幼保小中関連研修への完全参加	東郷学園との集合学習や、遠足・集団宿泊的行事を通して、両校の連携した指導を深めるとともに、合同研修会でのグランドデザインの見直し、精査を行ってきた。しかし、各校の職員が共に行う機会が少ないため、十分実践できたとは言えないと感じている職員もいる。グランドデザインを校内でも振り返る機会を適宜設け、小中一貫した児童への指導へとつなげていく。	B			
	小中一貫した児童生徒の育成		3.2	2.9	3.0	○保護者・職員へのアンケート全体平均3.0以上	グランドデザインを基にした児童生徒の育成において、共通理解や共通実践項目を適宜確認したり情報交換を行ったりするための連絡会を両校の教務主任が行う。	B			

評価委員意見総括

○無理な宿題は出ていない。個人差はあるが、さっと片付ければ自由な時間がたくさん確保できると、なんとも不可解な思いだった。バス組子ども教室も1年経過した。バス待ち時間の使い方を少し変えたい。ゲームだけではもったいない。校長先生、教頭先生、管理職2名が一度に交代で、この一年手探りの部分も多かったかと思う。新たな視点、気付きも多く加わったと思う。次年度への期待大である。  
○今年度の坪谷小学校はとても安定しているように思う。